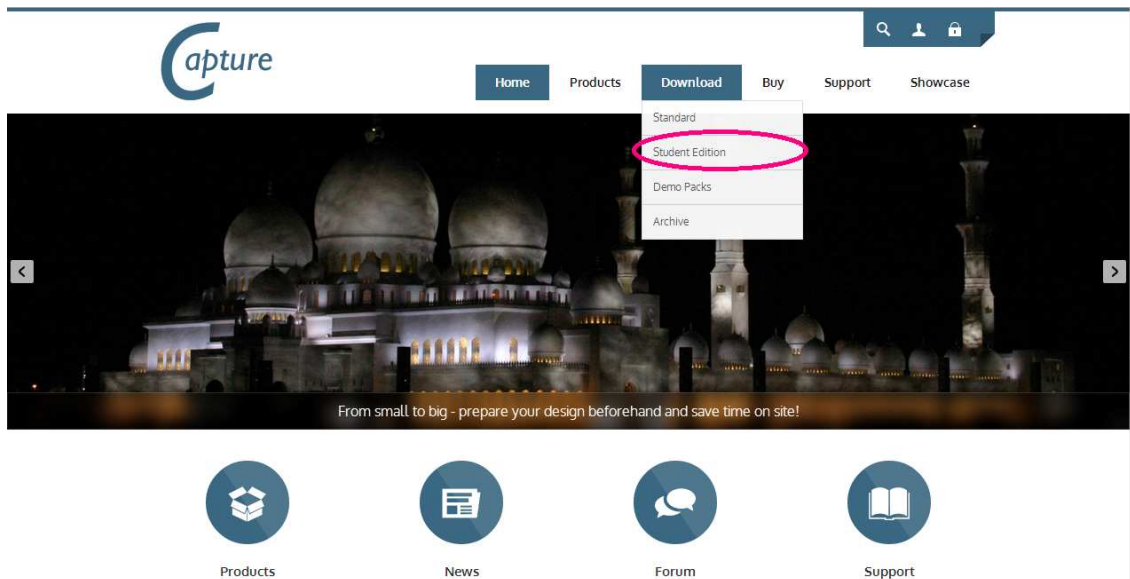
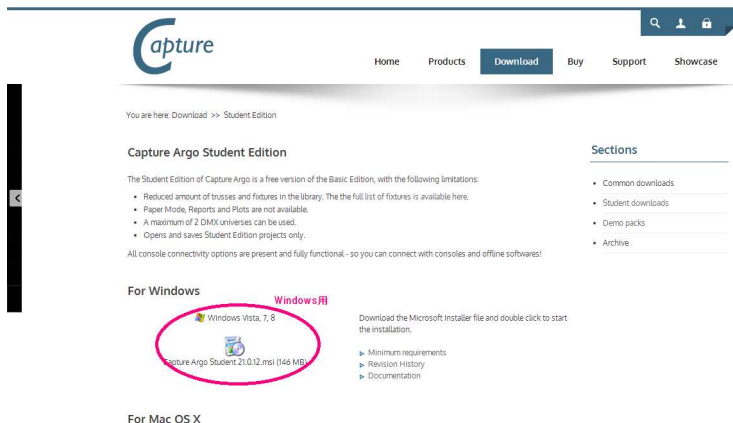


Capture Argo Student Edition ダウンロード方法

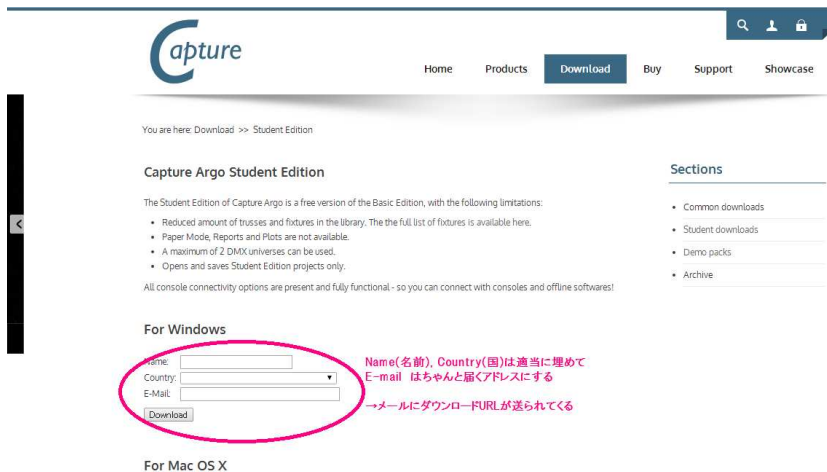
1. <http://www.capturesweden.com/> にアクセスし、「Download」→「Student Edition」



2. Windows 用は「For Windows」のところのアイコンをクリック。



3. 記入欄が現れるので、適当に埋めて「Download」をクリック。記入したメールアドレスに、ダウンロード URL が送られてくる。

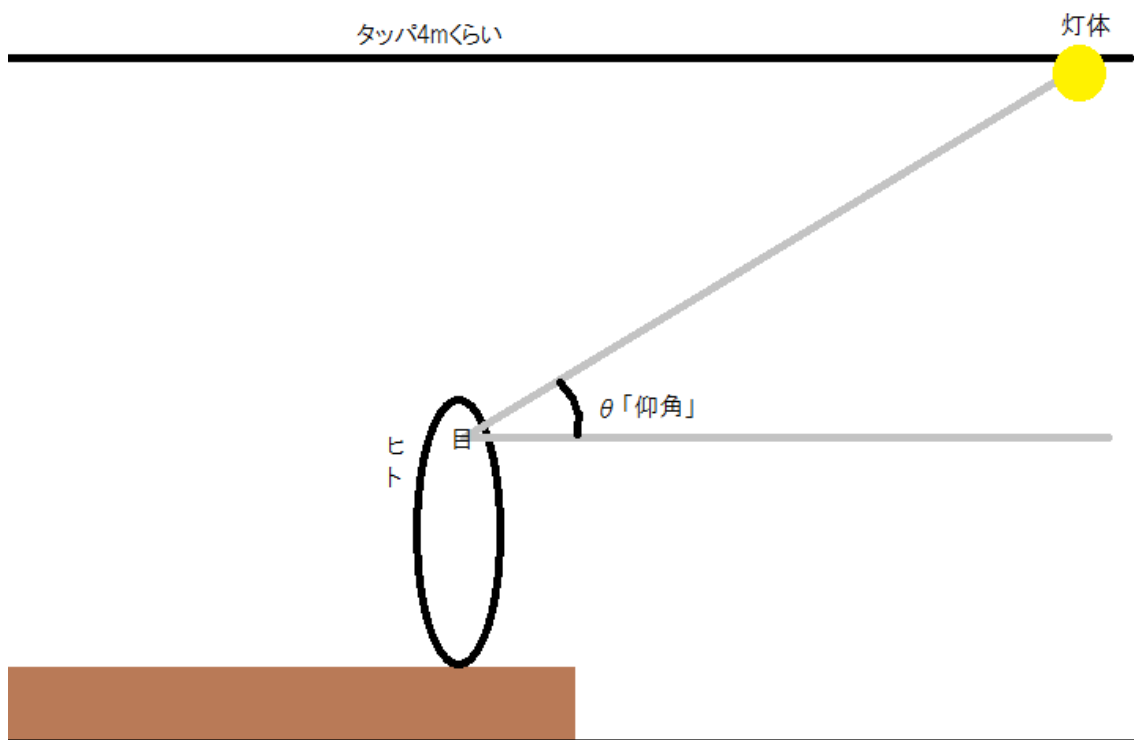


4. ダウンロードしたファイルを開き、指示に従ってインストールする。

Student Edition で使える基本の灯体（「ライブラリ」→「フィクスチャー」）

- ・ 平凸…「ADB」の「Europe C 101」（日本の平凸より照射範囲が広いので、 45° ～ 50° 程度までで使うとよい）
- ・ フレネル…「Robert Juliat」の「310HF」（1kW で光が強いので、適宜抑えめで使うこと）
- ・ PAR ライト…「James Thomas Engineering」（実物と光質がだいぶ違うので注意）
- ・ ソースフォー…「ETC」の「Source Four Zoom」（照射角可変型）

シミュレーションできない時も、断面図を書くようにしよう



このような簡単な断面図で、灯体と役者との距離・役者の顔と灯体との角度（仰角）を把握できるようにしておくと、「シーリングの角度が深すぎて奥まで当たらなかった」などのミスを防げる。たとえば、シーリングは、 $\theta = 30^{\circ} \sim 50^{\circ}$ 程度が適切とされている。

「仰角」のほかに、灯体の照射範囲（ビーム角・フィールド角）も重要。代表的な機種では、平凸(TI)… $\sim 45^{\circ}$ 、平凸(CSQ)… $\sim 55^{\circ}$ くらい、フレネル(Q-spot)… $\sim 50^{\circ}$ くらい。

ちなみに、鉛直下向きに照射する場合（TOP で使う場合）、照射円の直径(D とする)と灯体の高さ(H とする)との関係は、 50° のとき $D \doteq H$ 、 36° のとき $D \doteq 2/3H$ 、 26° のとき $D \doteq 1/2H$ 、 19° のとき $D \doteq 1/3H$ とされている。これはソースフォーの照射円の大きさを推定するための公式だが、他の灯体でも同様である。